

最優秀賞

パパ、ありがとう

(岡山) (株) 芦田商会

難波 明日香

私の夫は、トラック運転手である。大型の13tトラックで仕事をしている。一度仕事に出てしまうと、週末まで帰れないことが多い非常に過酷な仕事だ。

大型に乗っていると心配は付きものであり、朝の「いってらっしゃい」は、必ず「今日も無事故で走れますように」と、願いを込めながら言っている。

テレビでふと事故のニュースが入る度、自分の夫が事故を起こしたのではないかと気が気でないのである。トラックは事故を起こせば普通自動車のように軽傷では済まないことが多く、人を巻き込めば人を殺してしまう事故になりかねない。

私には二人の子どもがいる。二人とも男の子で車が好き。スーパーカーやショベルカーなど、一通りいろんな車を好きになった中で、やはり一番のお気に入り「トラック」である。パパの影響だろうか。夫の乗っているトラックを道路で見つける度に、「あっパパのトラック」と、指差して見つめている。

夫は、職業柄か普通車で運転している時も、交通ルールに厳しく、それを子どもにもよく言い聞かせている。私が運転し、夫が助手席に乗っている時なんて、まるで教習所の教官のように注意される。

特に厳しく見られるのは、一旦停止の標識である。私だけでなく、よく高齢者ドライバーにも多く見られるのが、この一旦停止線の前で止まらず、そのまま交差点に入ってしまったから停止してしまうという違反。

近年非常に多く見られる違反運転だ。一旦止まれば許されると思っている人も多いが、実際は停止線で止まらないと非常に危険なのである。急いでいるとついスピードが出てしまい、停止線を過ぎてから止まってしまうので夫によく注意を受ける。「停止線で止まらんと」と。それを後ろの席でしょっちゅう聞いている子どもたちも「ママ、と・ま・れ」と言っている。

自然と子どもたちも交通安全について学んでいるのだ。標識を見つけては、夫は文字を読ませ、同時に意味を覚えさせている。

おかげでまだ漢字も読めない、ひらがなでさえ読むのがあやしい年齢の子どもたちが、あちこちで標識を見つけるたび、「あつていしせんだ」と、文字を読み、言葉の意味を何となく、理解できているのである。

子ども二人を連れてよく散歩に行くが、ヒヤリとすることがあった。慣れた交差点で、下の子が走りながら標識を見つけ、いつも通り標識を見て

「と・ま・れ」

と言いながら止まった直後…勢い良く、右側から停止せず曲がってきた高齢者ドライバーが軽トラで向かってきた。ドライバーは、背が小さな子どもが全く見えていなかったようで、そのまま気付かず走り去ってしまった。

私は背筋が凍った。もし、子どもが標識を見つけず止まっていなかったら、確実に轢かれていただろう。相手はスピードを出したまま勢い良く曲がってきたのだ。怖かった。子どもも驚いたようで、目を見開いたまま「あぶなかった」と、つぶやいていた。

本人も、停止線で止まることの大切さを、身を以てわかっていたようだった。もちろん親の私でもある。そして同時に「パパ、ありがとう」と思った。

日頃から、夫が子どもや私に言い聞かせてくれていたおかげである。

その一件以来、子どもはもちろんだが、私もドライバーの時は、特に停止線や標識を気にして運転している。交差点に入る前に、必ず止まってから徐行し交差点に進入している。夫の日頃のぼやきを有り難いなあと思いながら、今日も運転している。